

2024 年度 2 年次 3 月(2023 年 4 月入学・形成期)

「学びと成長の歩みの記録」アンケート(概要版)

「学びと成長の歩みの記録」の概要

立教大学では、2023 年度に入学した学生を対象に「学びと成長の歩みの記録」(学修状況調査) のアンケート調査を実施しました。

「学びと成長の歩みの記録」のコンセプトは「学生自らが、[RIKKYU Learning Style](#) の各学修期(『導入期』『形成期』『完成期』)に合わせて自身の学修成果をふりかえり、成長の変化を自覚できること、そして、大学としてその結果を分析・検証し教育の改善に活用すること」です。

今回は 2023 年度学部 1 年次入学者(2023 年 4 月入学)を対象に、形成期終了時点の 2 年次 3 月に実施しました。今後、在学中に継続的なアンケート調査を実施し、「導入期」「形成期」「完成期」を通じた学びと成長の過程を追っていきます。

この資料では集計・分析結果の概要をご紹介します。アンケート調査にご回答いただいた学生のみなさん、ご協力ありがとうございました。立教大学では、今回の結果を踏まえてこれからの教育の改善に活かしていきます。

実施時期：2025 年 3 月 5 日～2025 年 5 月 31 日

調査対象：2024 年度学部 2 年次生(2023 年 4 月入学)

調査方法：全数調査（オンライン調査）

調査目的：[RIKKYU Learning Style](#) の「形成期」終了時点での学修成果等の把握を目的として実施することで、立教大学での学びや過ごし方について学生自身がふりかえり、大学としてその結果を教育の改善のために活用すること。

回答数と回答率

対象学生数：4,722 名 回答数：1,457 名 回答率：30.9%

学部	対象学生数	回答者数	回答率
文学部	862	348	40.4%
経済学部	662	151	22.8%
理学部	282	88	31.2%
社会学部	521	146	28.0%
法学部	578	178	30.8%
経営学部	395	76	19.2%
異文化コミュニケーション学部	141	50	35.5%
GLAP*	26	8	30.8%
観光学部	360	108	30.0%
コミュニティ福祉学部	351	122	34.8%
現代心理学部	315	104	33.0%
スポーツウエルネス学部	229	78	34.1%
合計	4,722	1,457	30.9%

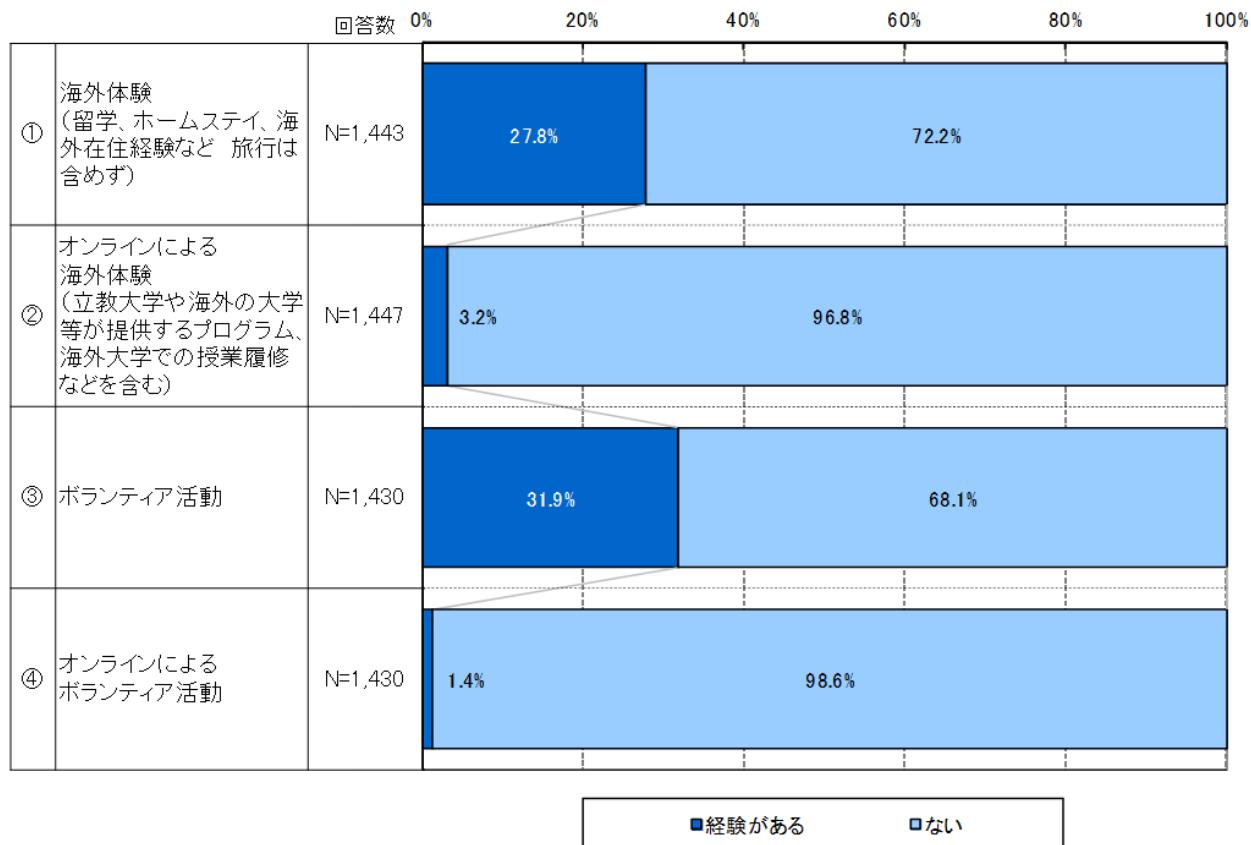
*注) GLAP: グローバル・リベラルアーツ・プログラム

調査結果（概要）

本調査で得られた調査・分析結果の概要をご紹介します。

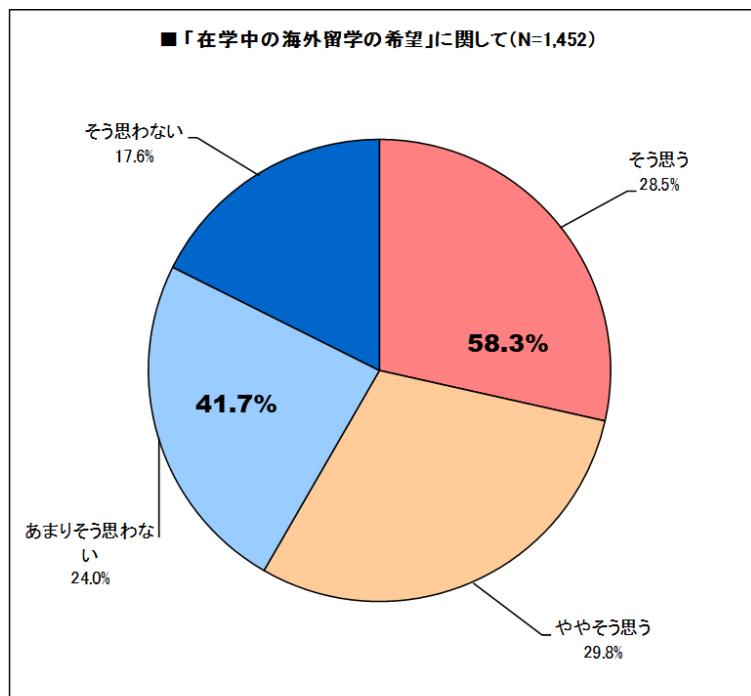
■Q1. 1年次春学期終了から2年次秋学期終了までの経験

- 海外体験を経験した学生は27.8%、オンラインによる海外体験を経験した学生は3.2%、ボランティア活動を経験した学生は31.9%、オンラインによるボランティア活動を経験した学生は1.4%でした。



■Q2. 在学中の留学意向

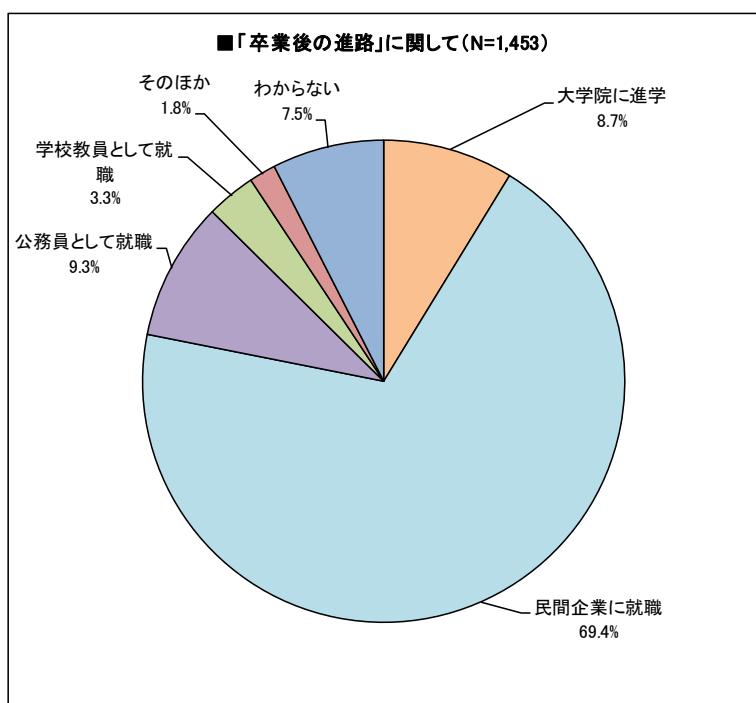
- 在学中の留学に対する意向を尋ねたところ、「そう思う」が 28.5%、「ややそう思う」が 29.8%、「あまりそう思わない」が 24.0%、「そう思わない」が 17.6%で、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると、約 6 割の学生が留学したいと思っていることがわかりました。



※グラフ中の黒太文字で示した数値は各々、「そう思う」と「ややそう思う」の合計、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計となっている。

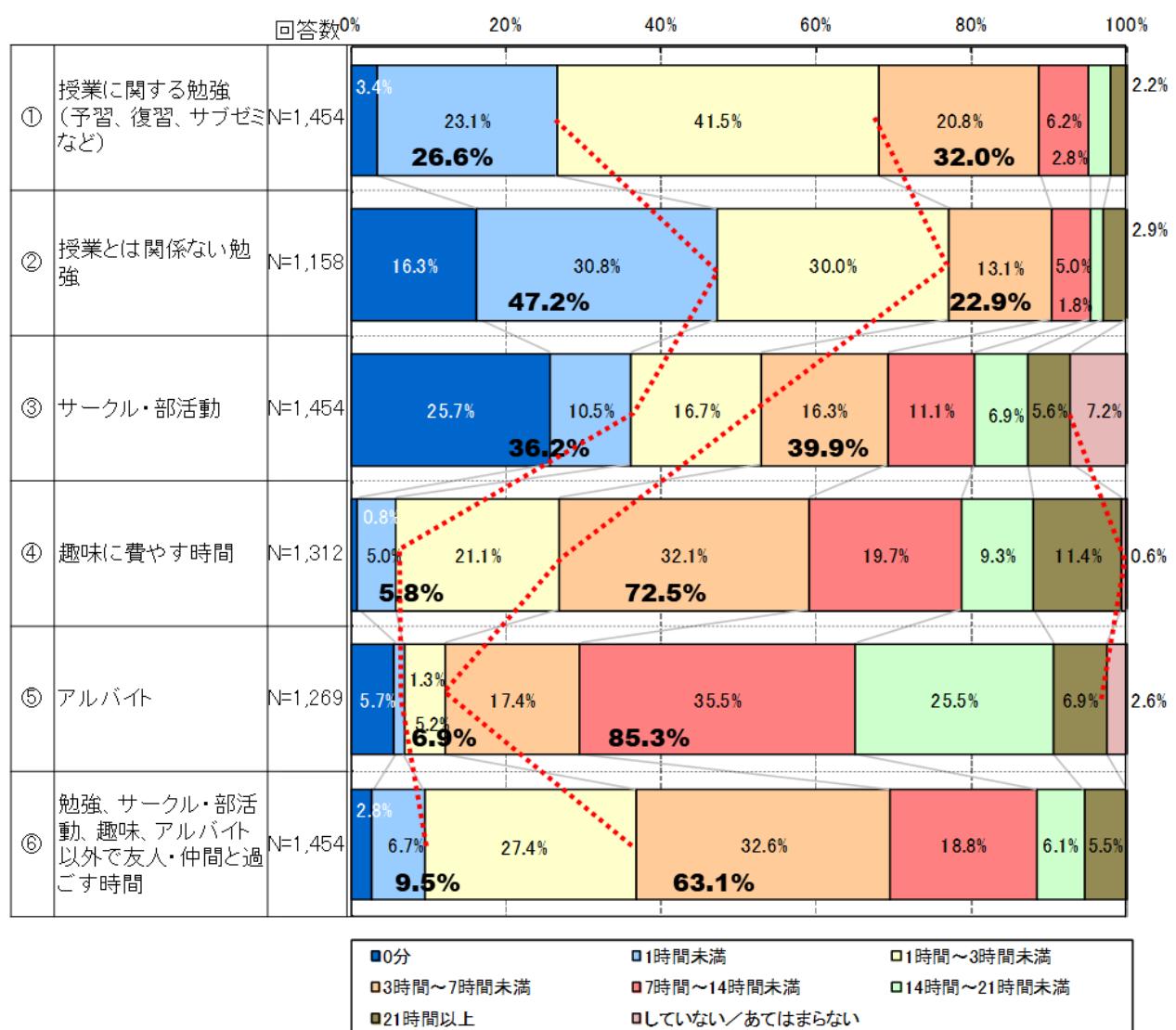
■Q3. 卒業後の進路意向

- 卒業後の進路の意向について尋ねたところ、「民間企業に就職」が最も多く 69.4%、「公務員として就職」が 9.3%、「大学院に進学」が 8.7%と続いていました。



■Q4. 学生生活（1週間当たりに費やした時間）

- 1年次秋学期および2年次春学期・秋学期の授業期間にそれぞれの活動に費やした時間（1週間当たりの平均）を尋ねたところ、「①授業に関する勉強」では、「1時間～3時間未満」が最も多く41.5%、次いで「1時間未満」が23.1%となっていました。「②授業とは関係ない勉強」では、「1時間未満」が最も多く30.8%、次いで「1時間～3時間未満」が30.0%となっていました。
- 「③サークル・部活動」では、「0分」が最も多く25.7%、「④趣味に費やす時間」では、「3時間～7時間未満」が最も多く32.1%、「⑤アルバイト」では、「7時間～14時間未満」が最も多く35.5%、「⑥勉強、サークル・部活動、趣味、アルバイト以外で友人・仲間と過ごす時間」では、「3時間～7時間未満」が最も多く32.6%となっていました。

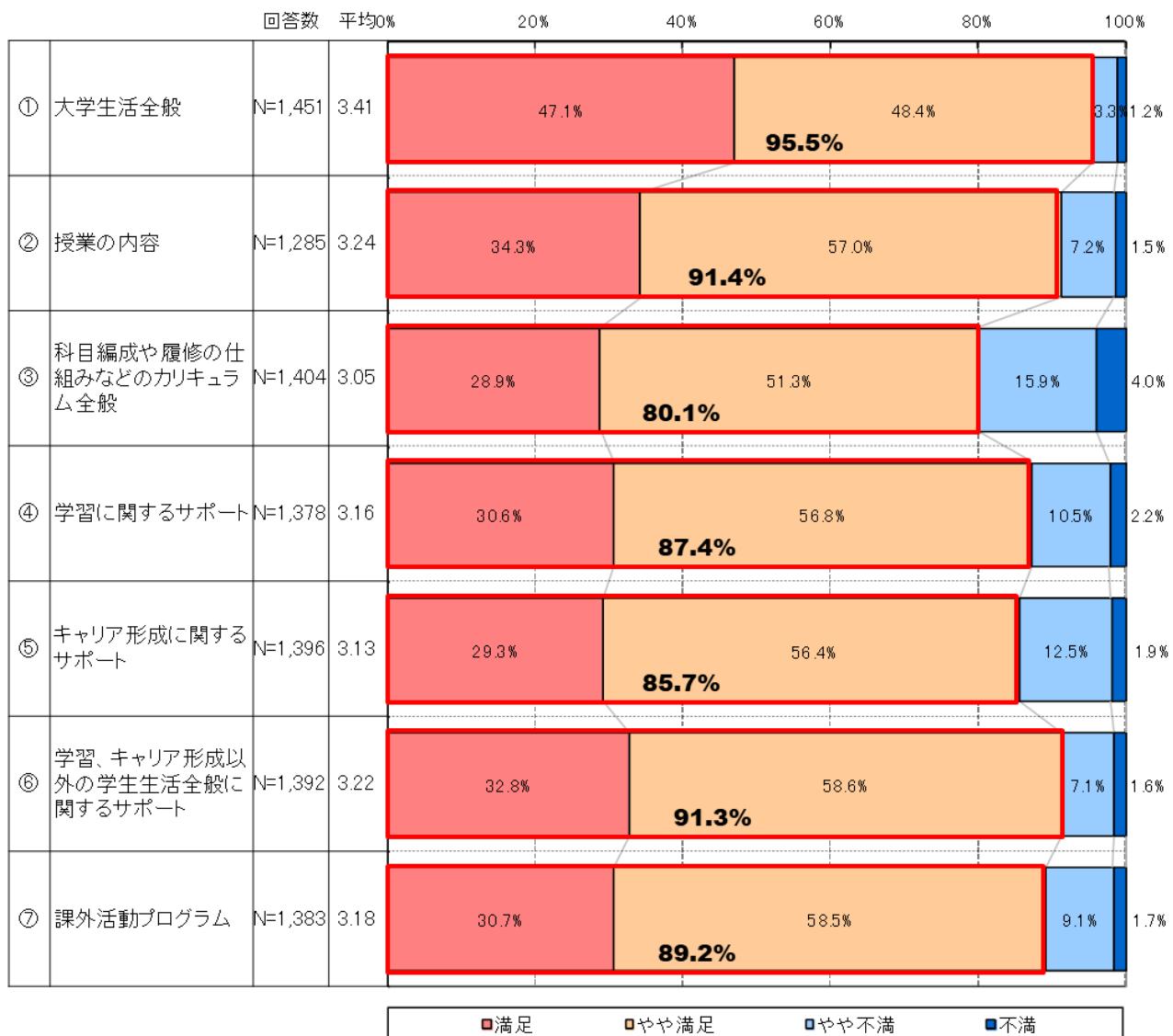


※グラフ中の黒太文字で示した数値は左側が「0分」と「1時間未満」の合計、右側が「3時間～7時間未満」「7時間～14時間未満」「14時間～21時間未満」「21時間以上」の合計となっている。

※①②⑥の3つの質問には「していない／あてはまらない」という選択肢は用意していない。

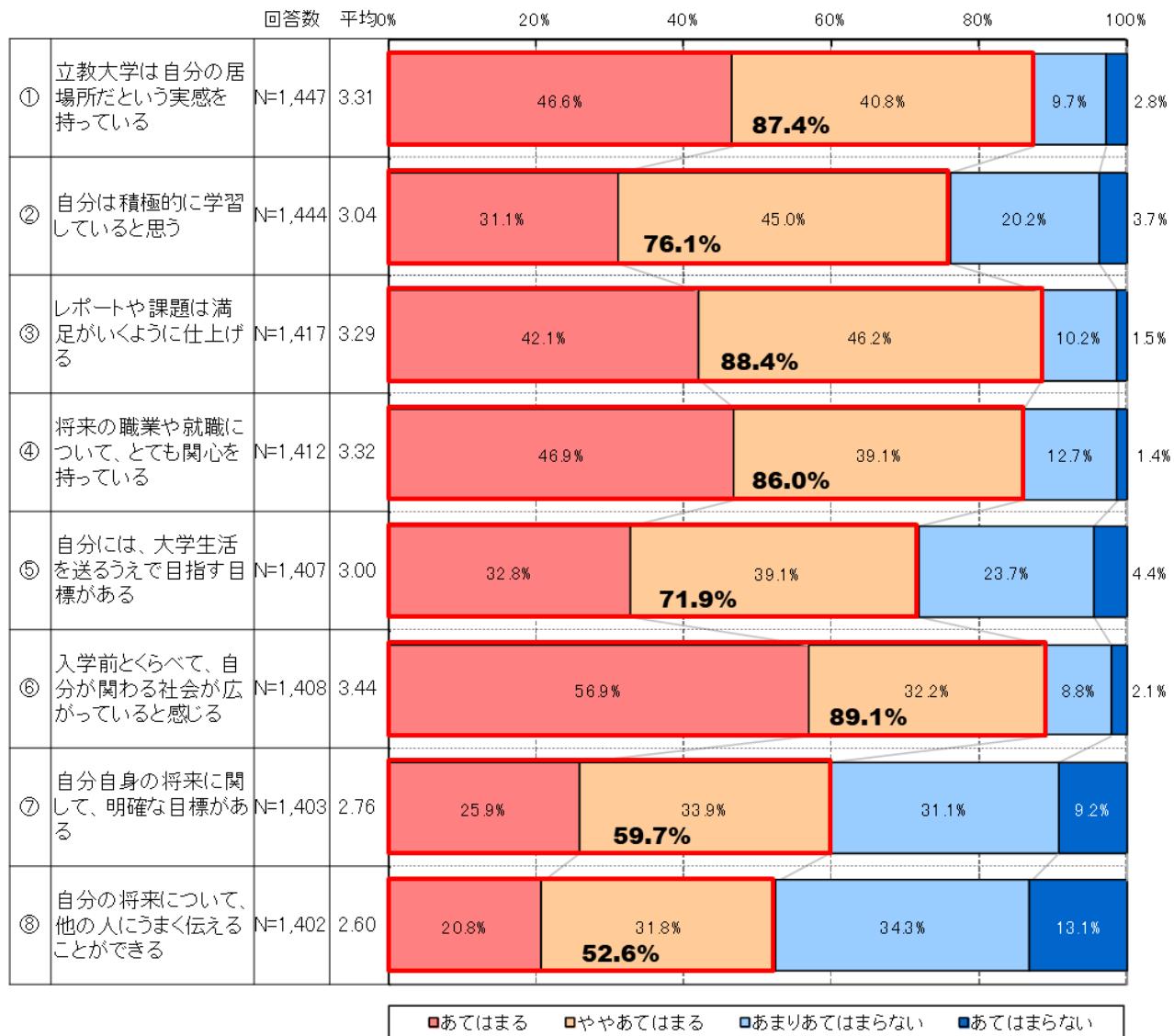
■Q5. 満足度

- 立教大学の各項目への満足度を尋ねたところ、「満足」「やや満足」を合わせると、全ての項目で8割以上の学生が立教大学での授業やサポートについて満足していると回答していました。肯定的な回答が最も多かったのは「①大学生活全般」で95.5%でした。一方、肯定的な回答が最も少なかったのは「③科目編成や履修の仕組みなどのカリキュラム全般」で80.1%でした。



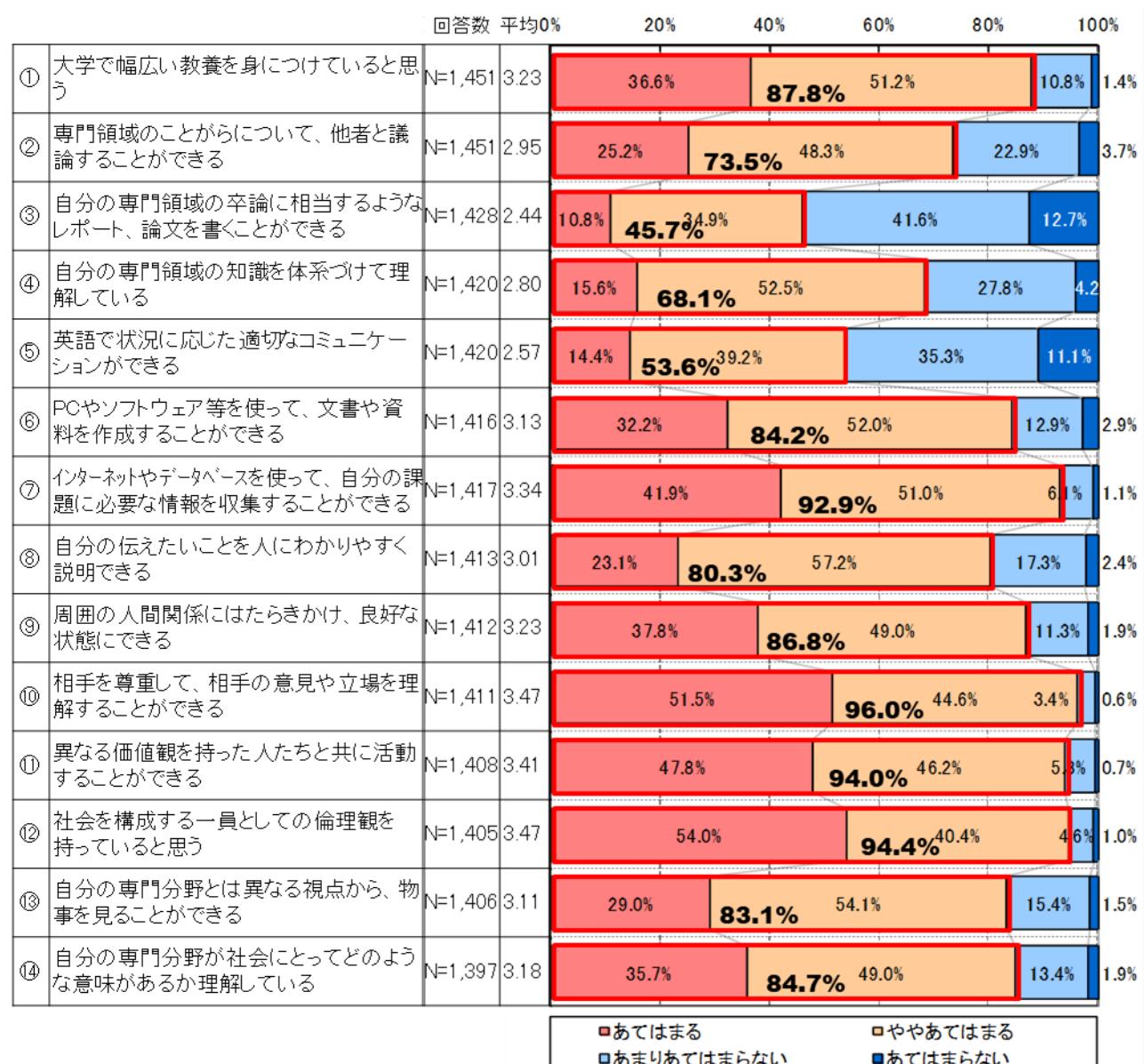
■Q6. 大学生活・学修について

- 大学生活や学修に関する質問項目をみると、Q6.①～Q6.⑥の現在の大学生活や学習、進路に関する各質問項目では、7割以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答していました。
- 一方、キャリアに関する質問項目をみると、Q6.⑦「自分自身の将来に関して、明確な目標がある」、Q6.⑧「自分の将来について、他の人にうまく伝えることができる」では「あまりあてはまらない」「あてはまらない」が4割以上となっていました。



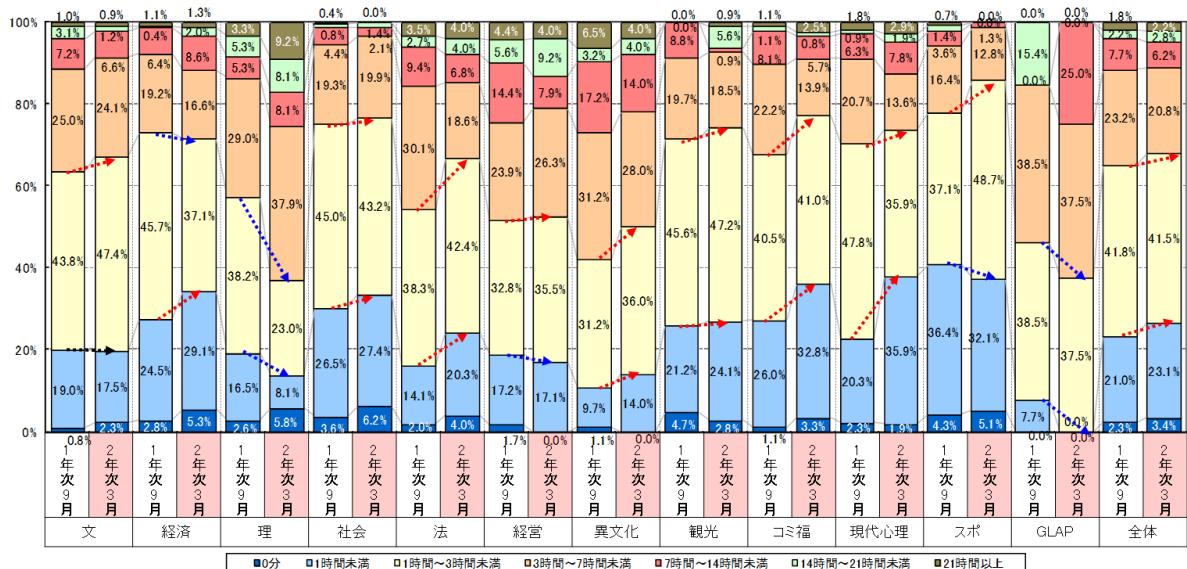
■Q7. 「立教大学 学士課程教育の目的」の学修成果

- 立教大学の学士課程教育の目的(ディプロマ・ポリシー)と関連する各項目について尋ねたところ、Q7.①、Q7.②、Q7.④～Q7.⑭では、半数以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答していました。
- 一方、Q7.③の専門的な学問の執筆力を尋ねる項目では半数以上の学生が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答していました。



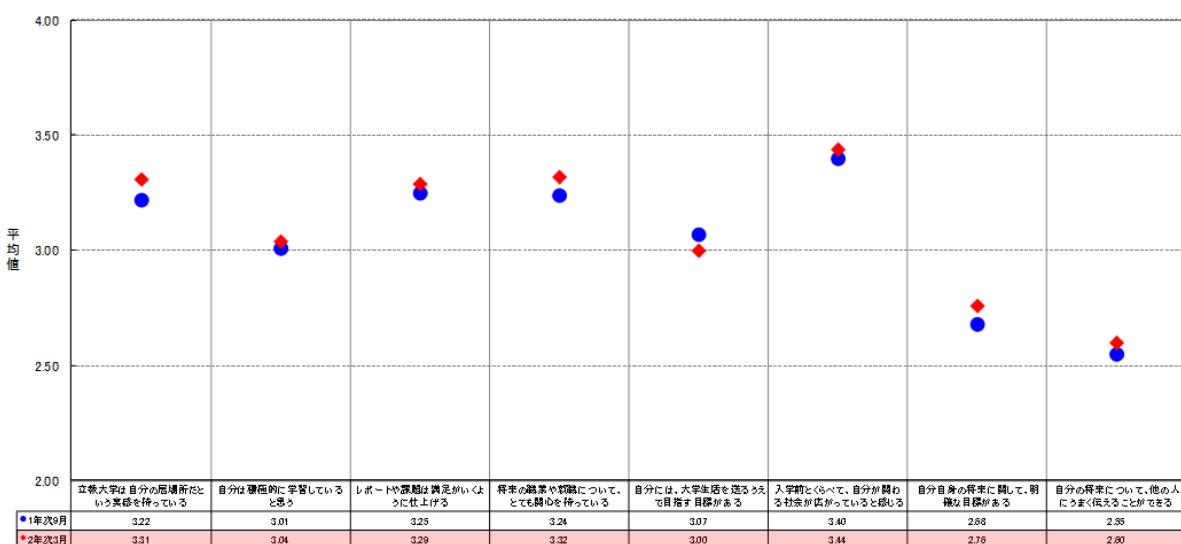
■ 〈授業に関する勉強〉に費やした時間（1年次9月調査時点との比較）

- 時間が短い層の目安として「1時間未満」までの合計で比較すると、経済学部、社会学部、法学部、異文化コミュニケーション学部、観光学部、コミュニティ福祉学部、現代心理学部で「1年次9月」より増加していました。
 - 時間が長い層の目安として「3時間以上」までの合計で比較すると、経済学部、理学部、GLAP で「1年次9月」より増加していました。



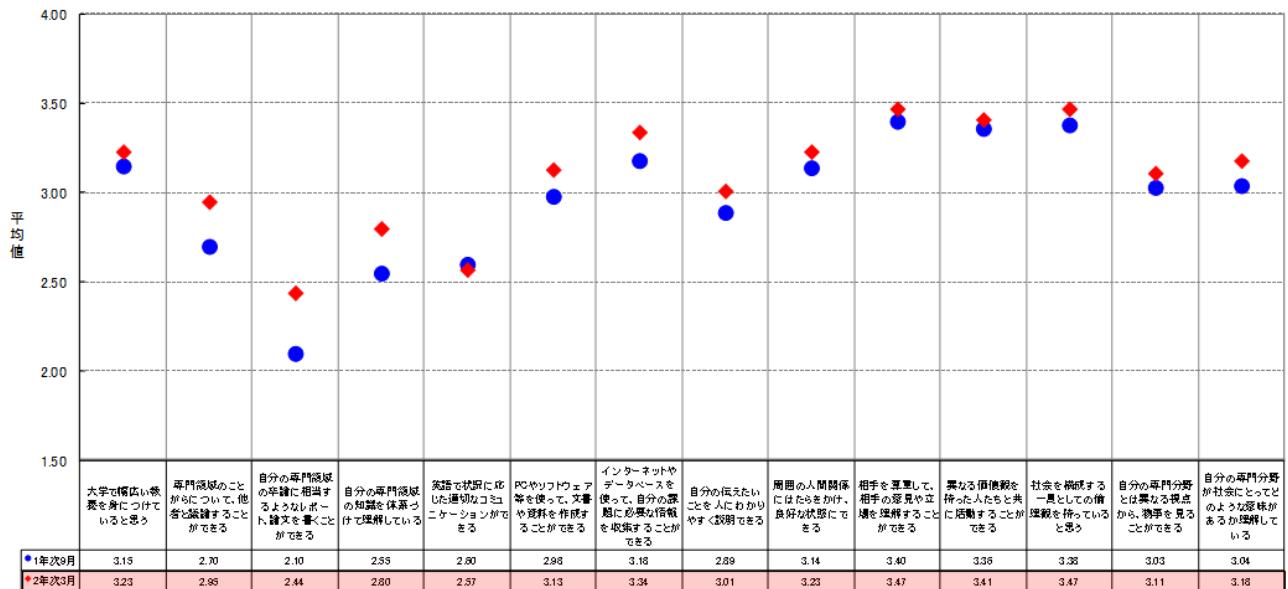
■ 「自分自身の状況」(1年次9月調査時点との比較)

- 「2年次3月」の方がスコアの高い項目を点差が大きい順に挙げると、「立教大学は自分の居場所だという実感を持っている」「将来の職業や就職について、とても関心を持っている」「自分自身の将来に関して、明確な目標がある」となっていました。
 - 「2年次3月」の方がスコアの低い項目は、「自分には、大学生活を送るうえで目指す目標がある」のみとなっていました。



■ 「身についている能力」(1年次9月調査時点との比較)

- 「2年次3月」の方がスコアの高い項目を点差が大きい順に挙げると、「自分の専門領域の卒論に相当するようなレポート、論文を書くことができる」「専門領域のことがらについて、他者と議論することができる」「自分の専門領域の知識を体系づけて理解している」となっていました。
- 「2年次3月」の方がスコアの低い項目は、「英語で状況に応じた適切なコミュニケーションができる」のみとなっていました。



2025年12月
立教大学 大学教育開発・支援センター 教学IR部会